

三股町報

No. 3

昭和38年

9月10日

発行 三股町

編集 総務課

三股町の位置及
面積

東径 131°.5'~131°.16'
北緯 31°.39'~31°.47'

東西 18軒
南北 12.7軒

総面積109.85平方軒



風にそよぐ とうもろこしにも
ほのかに 初秋のにおいがする



秋の訪れ!

九月は秋のはじめの月である。夕ぐれの野辺には、美しい虫の音が涼風にのって、そぞろ秋の訪れを感じる今日この頃です。残暑、台風シーズン、集中豪雨、「変わりやすいは秋の空」複雑な天候の中に、「暑さ、寒さは彼岸まで」とよく言われるように、秋分を過ぎる頃になると、こと更に秋風がうら淋しく身にしみ、めっきり秋らしい風

情が感じられるようになり
ます。子供達にとっては愈々二期です。長い夏休みのおとで、その惰性から、抜けきれず、規則正しい生活にもどりにくいのものです。不規則な生活習慣や、夏の疲労から一日も早く回復するように心掛けましょう。秋は又読書の秋、落ちついて勉強しやすくなる季節です。

からだの回復と同時に、学習意欲もだんだんたかまるように配慮していただきたいものです。天高く、馬肥ゆる、身心共に爽快な季節。秋の訪れと共に、食欲が増してきて、何を食べてもおいしい時期。そして健康と運動の秋でもあります。もうやがて学校と地域部落を、あげての楽しい運動会も繰り広げられることでしょう。

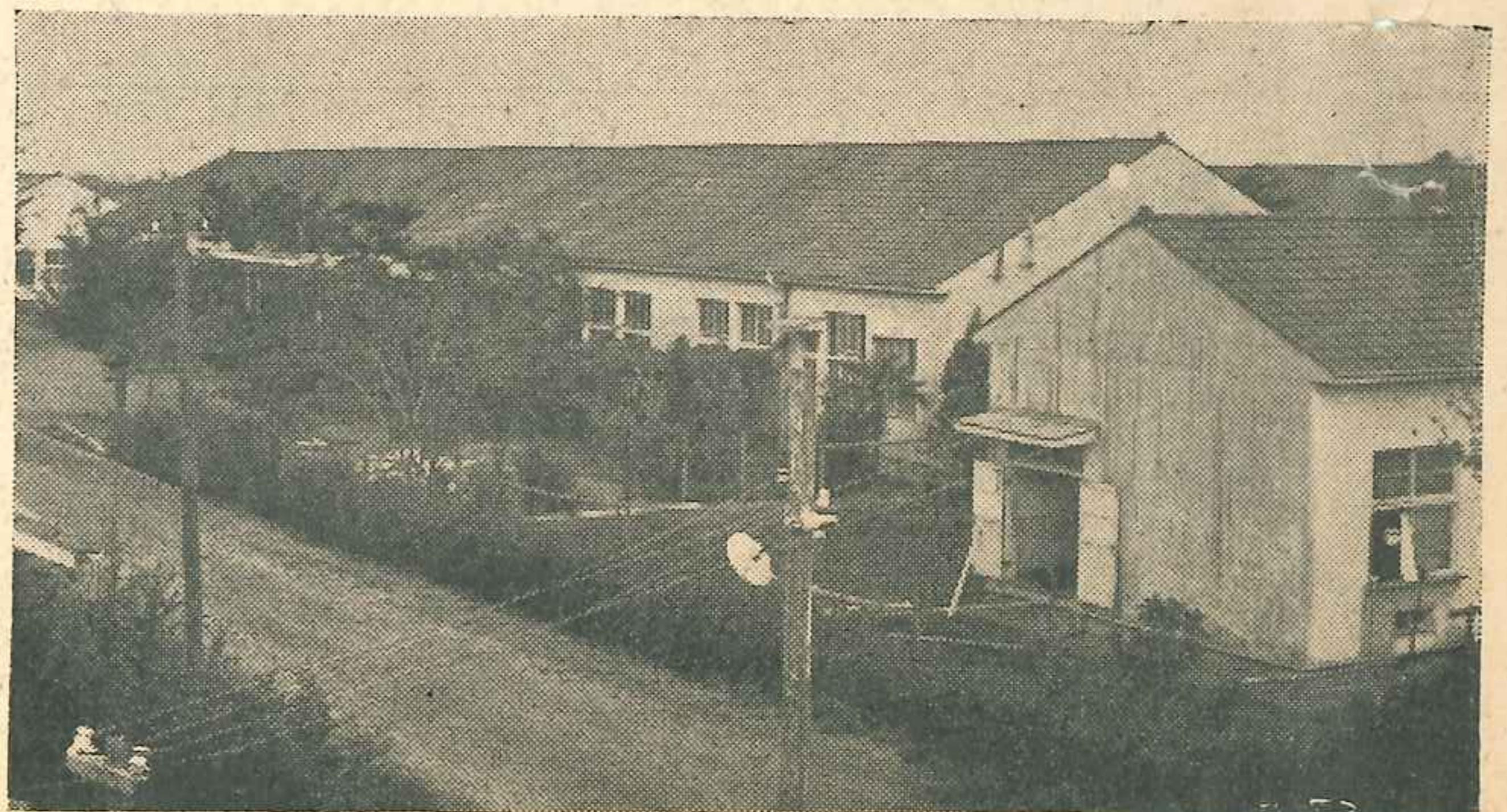
町立病院

満九才を迎える

町立病院も今年で満九歳の命を重ねようとしています。院内の草木は風雪にもめげず、過ぎし日の悲喜の数々を秘めて生長し、この間に受け継がれた町民福祉の願いは変わりなく、医師七名、看護婦二十六名、その他の職員三十六名、計六十九名の職員は町長の協和の方針に従がい、院長を中心として診療の完璧は勿論一般予防衛生と併せて、患者の早期発見治療に日夜夜夜として努力しているのが現状であります。一方施設の面では現在ベッド数一〇三床で又更に病院本

来の使命達成のため、三十六年度に一千万円の国民年金還元融資を受け内部の増改築を行なったのでありますが、町民各位の理解と協力によって順調な歩みを続けております。今後も町民の健康保持に寄与出来る病院、信頼される病院として町民の期待に沿うよう、経営管理に一段と意を用いつつあります。今まで家庭経済に大きな脅威を与えていた療養費も社会保障制度の拡充によって

国民健康保険は、今年十月から世帯主については七割給付になり、自己負担の大きな軽減になります。またことによるとばしいことでもあります。しかし、こうした社会の進展は反面私達に健全な身体と高度の知識を要求します。健全な身体は不断の節制と早期診断治療によって培われることは申すまでもありません。私達が理想とする健康で明るくそして文化的豊かな郷土三股町の建設は町民の一人一人が健康保持に最大の関心と細心の注意を払うことによつて実現するのではないでしようか。この理想郷の実現にお互い力を合せて行きたいものです。



(とじると便利です)

建設工事愈々着工

来春給水開始予定

北部地区簡易水道

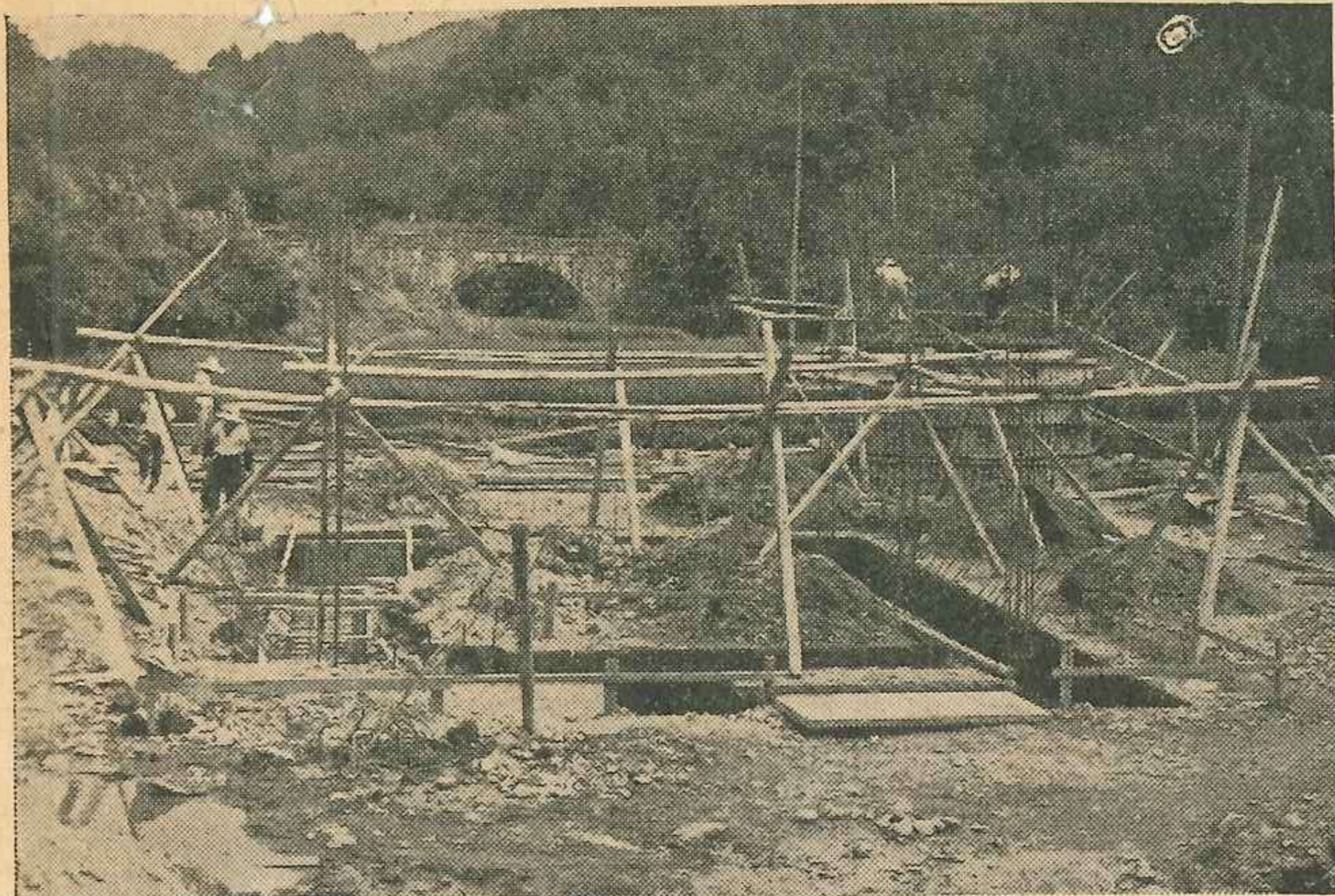
現在布設されている中央地区簡易水道は順調な足どりで運営がなされ、給水対象のほとんど一〇〇%近い普及率をあげております。

今回更に梶山、勝岡校区一千世帯(四、五〇〇人)を対象とした北部地区簡易水道を工費三千四百万円の予算

をもつて此の程その工事に着工いたしました。水源は湯屋が淵の近くにエタニット建設株式会社によって昼夜兼行でそのさく井工事が遂行されております。

配水地は中野部落の山の腹に予定されております。配管引込み工事等、来春早々給水を目標に突貫工事がなされることになっております。

水道は私達の日常生活に直結し、生活の改善はもとより、殊に飲用水が私達の保



突貫工事中の湯屋ガ淵水源地現場

健衛生に及ぼす影響は極めて大きく、又更に労働の節減、或いは又火災の初期防火とその利用度も高く、だからからも喜ばれておるものであります。

給水工事の申し込みは早めに

各家庭に給水するには各家庭の給水工事(本管から台所、風呂場等への引込工事)をしなければなりません。

此の給水工事も当初において一括工事をいたしますと各個人の負担工費が安くなりますので皆んな早めに給水工事の申し込みをして下さい。

その受け付けは九月の中旬から受け付けますので、それぞれ各公民館長さんか、町水道係の方に申し込みをして下さい。

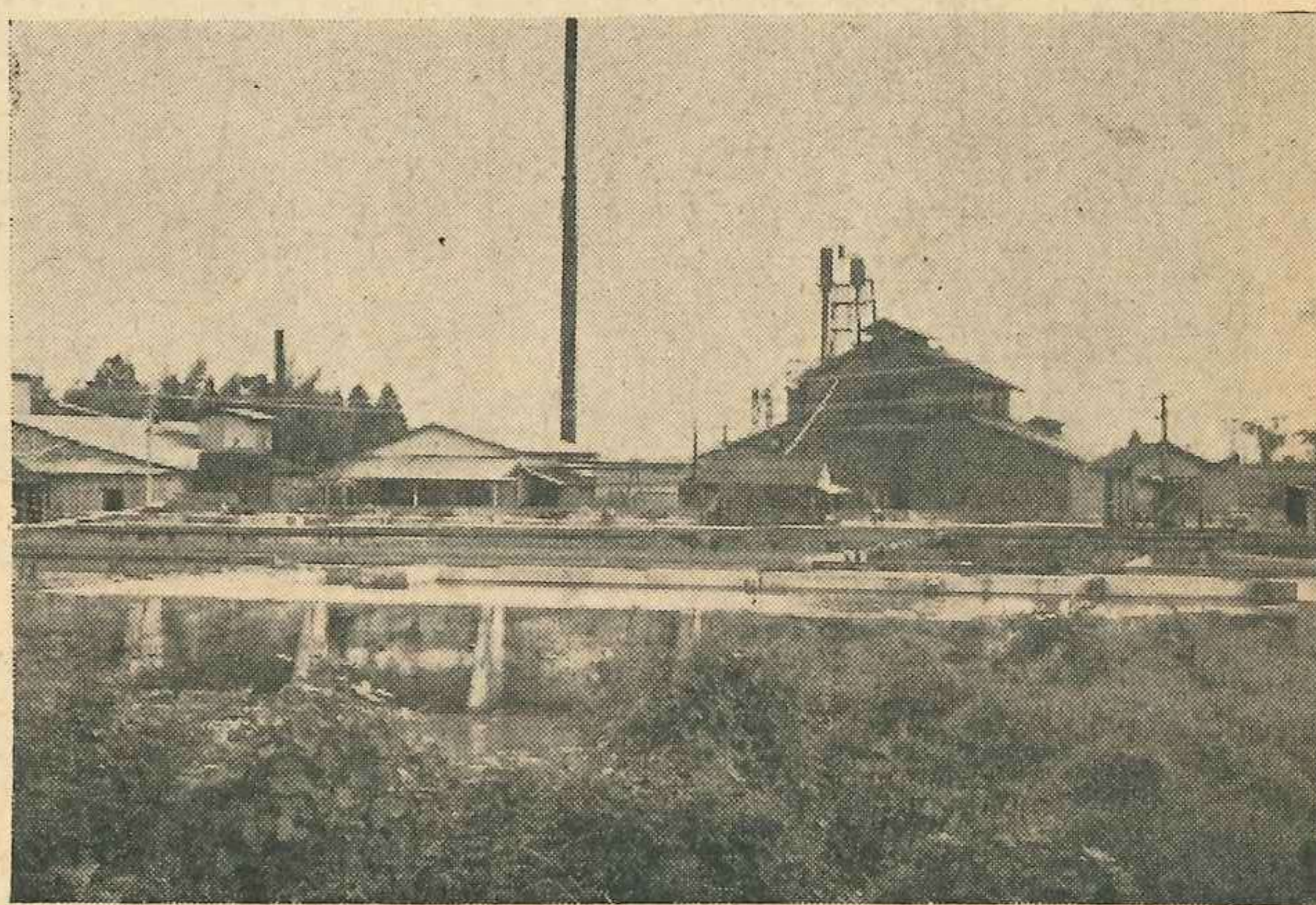
農家台帳補正調査に協力下さい!!

今回農業委員会におきまして農家台帳の補正調査を実施することになりました。

この台帳は今後の町農業振興計画事業の推進や、その他に非常に利用されております。この度の調査は昨年

農家台帳補正調査に協力下さい!!

八月より本年七月末までの世帯員その他農地の移動、生産、収量等を調査するものであります。部落の調査員が各家庭に参上した場合や、集会をお願いした場合に正確な調査ができるように進んで協力して下さい。よう御願ひ致します。



工場誘致条例の適用を受けて建設された羽原糖業KK(宮村)

低開発地域指定で

工場の誘致を

先般日向、延岡地区においては新産都市の指定を受け、一躍脚光を浴びております。

本県においてはその他低開発地域として、宮崎、高鍋

及び都城、高崎地区がその指定を受けております。

三股町に於いてもすでに低開発地域として指定を受けている都市とは地理的、産業、交通の面から同一圈内に於いて密接な関係にあり、入方を強力に推し進めてまいりましたが、ただ今のところその指定はほぼ確実視されるに至っております。

本町に於ける工場適地としては都城と隣接する植木、境原、今市、蓼池地区を申請致しております。

工業立地調査団 来町

今回の依頼により、我が町の財界、学界及び政府各省のそれぞれの専門家により構成されている調査団体の工業立地センターから鈴木雅次氏(日大教授)を団長とする十二名の低開発地域工業開発調査委員会一行が去る八月二十一日来町調査に先だつて都城市場において都城市長並びに三股町長よりその地区の概況説明を受けたのちそれぞれの地域を实地調査いたしました。

県はこの調査結果に基づいて今後の工業の振興にのり出すことになっております。

七けた(百万円)農業はみかんの増植で

今日の産業経済の発展は目ざましいものがあります。農業に於いても、技術の進歩、新しい農業、機械の導入等徐々に革新がなされてはおりますが、それも他産業の発達に比較すると大変おくれが目だつていと言われております。

商業や工業にとらないような儲かる農業にするにはどうしたらよいか。

それには考える農業、選た的拡大の農業が大きく唱えられております。

それで本町に於いては農業の基幹作物として果樹園の拡大を大きく取り上げておりますが、すでに梶山地区はつとに梶山のみかんとしてその名を知られており、そのみかんは遠く県外に出荷されており、現代農業の

「現在此の地区においては七けた農業の実現はみかん以外にない」とこの道五〇年の園田秀彰氏ははっきり言います。

そして「今日の経済、文化の向上と共に生活の改善もなされ、それに伴って果物の需要も大きく伸び続



『町づくりは、みかんで』を力説する園田さん

農村に生きる

餅原 別府 稔(23才)

投稿欄

他産業と所得格差の開く農民を救う道は何か、この問題に対してあらゆる面から意見が百出している現在さしあたって所得倍増計画に基く農基法一三十七年度から打ち出された近代化をうたった農業構造改善もその一つであります。

泥と汗にまみれて働いている時私はその中に一つの不安と憤りを感じる。

一國の総理が高度成長、やれ所得倍増と唱えながらも農基法に関連した細部にわたるところの価格安定法なるものはいっこうに生まれ出てこないというの一体どうしたことであろうか。

隊こそ成長部門のホープだ

って必らず道は開けてくるだろう」と果樹振興の熱意の程がうかがわれます。

最後に「我々の後に続く、これからの若い人達に魅力のある土地、魅力のある農業に育てたいものだ」と強く語っておられました。私達もこの強く、尊い意志を深くききめいじ私達農民のために一歩一歩前進して伸びゆく郷土を築きたいのです。

と云うとたちまちにしてブタブタと増えて、肉の値段は暴落、何の為の政治なのか。であろうか。

所得倍増計画の進行にともない物価の値上りは当然だとうそぶく人達がなぜ農産物に対して価格安定法などの政策を打ち出されないのか。

ここ数年、国民の主食たる米麦が騒ろんじられる傾向にあり、農産物が値上りすると、いとも勝手な記事が多い。

生産性の成長率の高い工業生産品の値下げ出来ない者が(倍増計画が泣くという原因はあるが)農民ないしは農産物にたいして冷淡であるということは納得がいかない。

役人はとにかくやれと言う田畑の区画を大きくして大きな農業機械をいれ、労働時間を少くして主産地形成をしろと言う。実に結構なことであり私も賛成ではある。だれだつて経営の改善による近代化を計り、安心生産費で大量の物をつくり出し、人並みの所得を得たいと思うからであります。だが農業では構造改善はやりたくてもそうたやすく出来ないところにある大きな悩みがあります。

乳牛でも五頭から十頭にするにはいとも簡単なように思われがちであります。それよりも一頭一頭味に増やした方が安全かつ賢明であるような気がします。そこで私は考える。

農業構造改善をさまざまの無理のない形で根気よく取り除く経営安定こそ、我等農民が最も早く出来得るところの農業構造改善ではないだろうか。

長い年月をかけて、その上で金のある少数の者でなく皆んなが多頭飼育がよからうと思うなら、多頭の出来得る努力をしようではありませんか。

国、県、町当局の思い切った農業に対する公共的な投資が必要であることはとりもなおさず農政は農民のものであつて、役人のそれではないことは論をまちませぬ農業構造改善は我等農民のものであつて、役人のものであつてはならないことである。我々の歩調で農民自らの手足才覚によつて、今迄以上の努力と勤勉によつて押し進めるべきであります。

それで出来ないところを政府や役人によつてもらえばいいのではあるまいか。

我々農民が浮き足だつたらその影響は消費者の生活に引いては国の経済が不安定になってくるのは必定であります。

私も農業一年生、一人で行けない現在、より多くの我等農民が団結し合つて、楽しい農村建設に努力しようではありませんか。

此の広報を通じ若き農村の皆様の見聞を聞きたいと思うのであります。

投稿に謝して

今回別府稔さんより「農村に生きる」と題して今後進むべき農業近代化は私達農民の為のものであつて、私達農民は一つ一つの障害をのりこえて、努力と勤勉をもつて明るく豊かな農村の建設に邁進したいとそのあくなき若人の情熱を寄せて頂きましたのでここに原文のまま掲載させて頂きました。



近代的な設備の完備した老人ホーム静流荘の全景

カメラ訪問

町立老人ホーム
静流荘

としよりの日

九月十五日

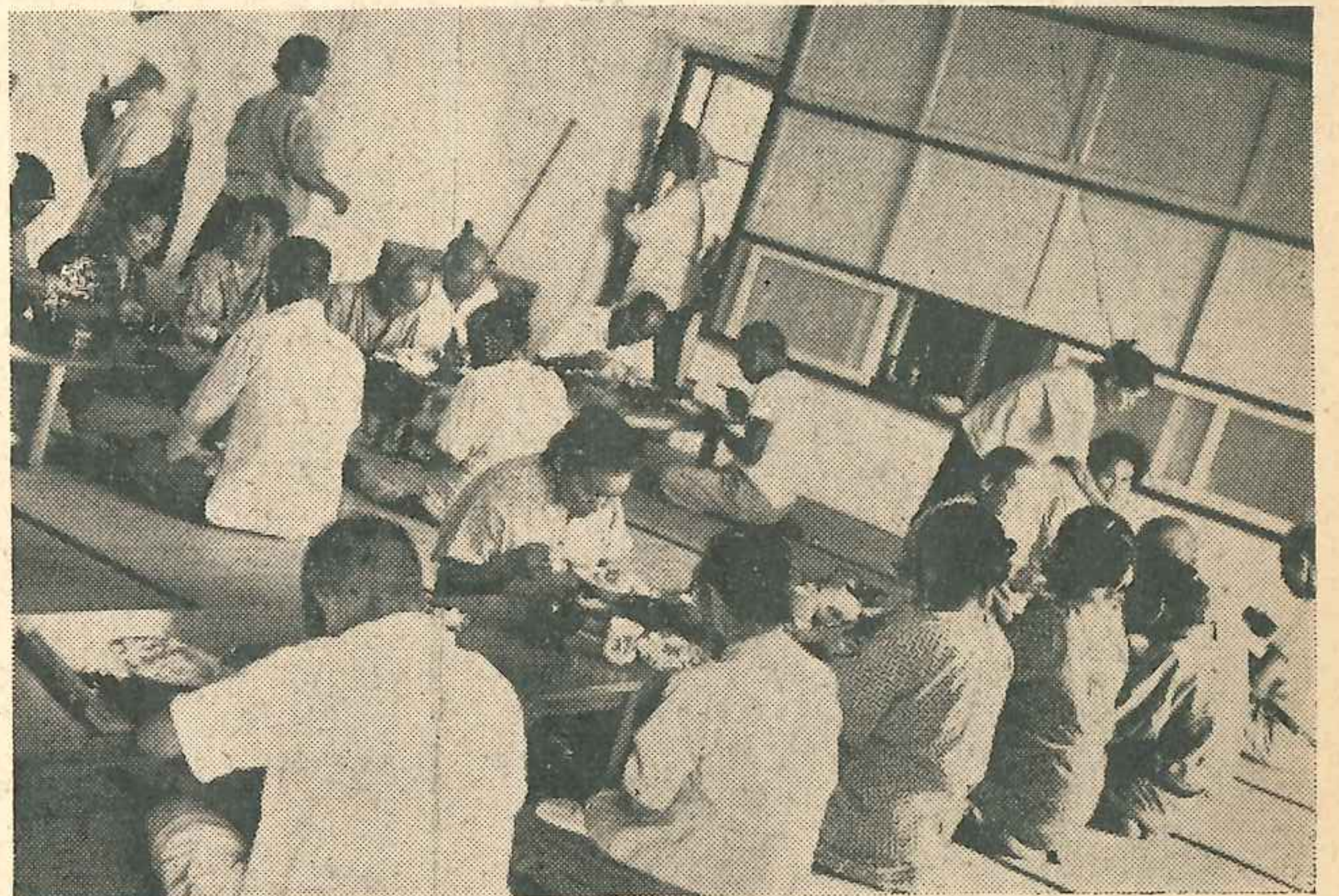
我が国の平均寿命は男六六、二才女七一、二才で老令者の人口は年々増加の傾向にあります三股町に於いても、八〇才以上の老令者の方は一六〇名(男五七、女一〇三)で昨年の一四九

名より一一名の増加を示しております。老後の生活が明るく、豊かなものであることは、としよりのみでなく、すべての人の真実の願いであります。

老人問題に関する対策の充実が要請されているとき、本町に於いては、いち早く老人ホーム静流荘を建設いたしました。今回はその養老院の近況を、カメラで紹介いたします。



入浴は楽しい日課の一つ、あの道、此の道を経て苦難の過去は水と共に流して



「栄養万点」皆んなで食べること更に食欲は進む



「しあわせな人生」をつくづく味わう
桜木さん夫婦、外に4組の夫婦が居る



おぢいちゃん、おばあちゃん達を慰問する「可愛い熱演」